

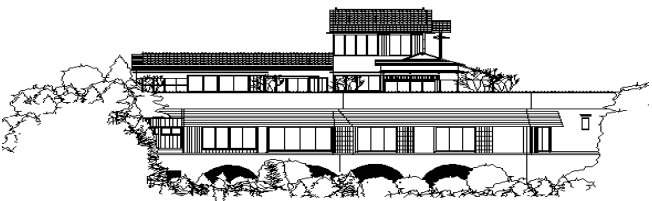
熱海日向別邸に関する研究（その1）
—文献資料及び実測調査にもとづく考察—

山名研究室

1. 研究背景及び目的

研究対象とする熱海日向別邸（以下別邸）は、実業家である日向利兵衛^{註1）}の別荘として建設され、渡辺仁^{註2）}設計による地上1・2階部分とブルーノ・タウト（以下タウト）^{註3）}設計による地下部分で構成されている。これまでの別邸に関する研究は、タウト設計による地下部分を対象としたものが多く、1・2階部分を含む別邸全体を対象とした研究は見受けられない。

そこで本研究では、実測調査及び文献資料と一次資料^{註4)}を所有、設計、施工、協力に分類し考察することにより、現在に至るまでの別邸における建設の背景及び経緯を明らかにすることを目的とする。



▲図1 熱海日向別邸立面図

2. 研究の方法

2-1. 実測調査及び作図

実測調査し、図面作成及び図面のリスト化を行なう。

2-2. 施工時の関連人物の把握と分類

文献資料より施工当時の関連人物を抽出し、所有者(施主)、設計者、施工者、及び協力者に分類し、図式化を行なう。なお、所有者は現在に至るまでの土地または建物の登記簿に記載されている者、設計者は別邸の1・2階部分と地下を含め設計業務に携わった者、施工者は別邸の1・2階部分と地下室において基礎工事を含む施工業務に携わった者とする。その他、別邸の建設に携わった者を協力者とする。

2-3. 熱海日向別邸の変遷の検証

実測調査、文献資料及び一次資料をもとに、所有者、設計者、施工者、協力者に関する事項を抽出する。それらを施工前、工事期間、竣工後の3つの期間に分け、時系列に検証する。工事期間は別邸の1・2階部分の着工から地下部分の改修工事が終了するまでの期間とし、それ以前を施工前、それ以後を施工後とする。

3. 研究内容及び考察

3-1. 図面作成と図面リストの作成

実測調査による実測図85枚を図面化し、図面リストを作成した。(表1)

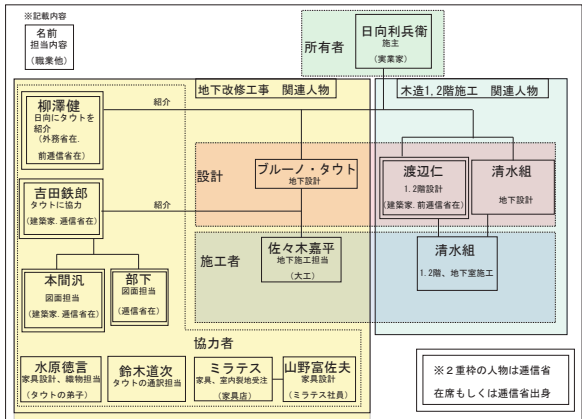
▼表1 熱海日向別邸図面リスト

番号	図面名	実測日	番号	図面名	実測日
1	平面図(地上1階)	04.06.	30	展開図東面(竹の間)	04.06.
2	平面図(地下1階)	04.01.	31	展開図南面(洗面室)	04.04.
					04.06.

5101442 三平 裕毅

3-2. 施工時における関連人物の相関関係

別邸の関連人物を、所有者、設計者、施工者、及び協力者に分類し、施工時における人物の関わりを図2に示す。



※備考：データはブルーノ・タウト『タウトの日記1935、1936』岩波書店、1975年、鈴木久雄『ブルーノ・タウトへの旅』新樹社、2002年によるものとする。

▲図2 熱海日向別邸人物分類及び関連

1・2階部分の設計者である渡辺仁と地下部分改修時の設計者であるタウトには接点はないが、渡辺仁と通信省経理局営繕課で同時期に勤務していた吉田鉄郎は、タウトの協力者であったことがわかった^{註5)}。また、別邸の関連人物には吉田鉄郎の部下も含め通信省出身、もしくは在籍中の人物が多く関わっていることがわかった。

3-3. 文献資料からみる熱海日向別邸

別邸に関連する人物及び関連事項を年表にまとめ、現在に至るまでの概要を表2に示す。

3-3-1. 所有者における関連事項

竣工当時の所有者は、文献より日向利兵衛となっている^{註6)}が、登記簿上の所有者の名義は三男の日向正三であることがわかった。また、タウトの地下改修が完了してから、その後数回の所有権移転を経て現在に至ることがわかった。

3-3-2. 設計における関連事項

渡辺仁設計である1・2階部分は、1935年2月に竣工している^{註7)}ことから、タウトが地下の改修工事の設計を依頼される1935年4月5日^{註8)}以前には既存していたことがわかる。

竣工時の別邸の1・2階部分の写真^{註9)}を検証すると、庭園に張り出した大きな庇は実測調査では無くなっている。1983年出版の文献^{註10)}に示されている法政大学による実測図面^{註11)}をみても庇は描かれていないことから、1983年以前に撤去されていると考えられる。タウトの地下改修においても、1936年9月の竣工当時の写真^{註12)}と現在の状態との相違を検証すると、南側に面した開口部の外に設置されていた手すりも現在は撤去されている。また、1935年の竣工後の2階和室

▼表2 人物分類からみる熱海日向別邸の変遷

分類事項	年	日向熱海別荘施工前	'34-36, 9.20 日向熱海別荘建築工事期間	日向熱海別荘竣工後
所有	所有者	○'22-32 尾崎尚盛 ○'32-33 加藤松二	○'33-43 日向正三	○'44-52 安原政雄 ○'43-44 大野栄治 ○'52-04 日本カーパイド工業株式会社
	所有 関連事項	○'38, 10.25 日向利兵衛止地取得 ○'34 日向利兵衛は渡辺仁に1,2階設計を依頼	○'35, 4.5 日向利兵衛は外交官 柳澤健からブルーノ・タウトを紹介され、地下改修を依頼する ○'35, 4.16 日向利兵衛はタウトに地下室を断断、社交室にしたいと希望を伝える ○'35, 4.23 日向利兵衛はタウトにスケッチを7枚送る ○'35, 8.16 日向利兵衛は改修材料費を佐々木嘉平に渡す ○'35, 8.17 日向利兵衛は日本間の天井について吉田鉄郎に電話する	
設計	設計者		○'34-35.2 渡辺仁 1,2階設計 ○'34-35 清水組 地下1階設計	○'35, 4.5-36, 9.20 ブルーノ・タウト地下1階改修
	設計 関連事項		○'35, 4.5 タウトは外交官 柳澤健の秘書近藤を通じて日向利兵衛に出会う ○'35, 4.35, 9.9 タウト多賀に借家滞在 ○'35, 4.17 タウトは地下室の構造スケッチを完成させる ○'35, 4.23 タウトは日向利兵衛にスケッチを渡すを得る ○'35, 5.1 タウトは地下改修にて吉田鉄郎の協力を得る 本間汎などの吉田の部下の協力も得る ○'35, 5.8 タウトは熱海日向別荘の打ち合わせの為、吉田鉄郎邸を訪問 ○'35, 5.8 タウトは吉田鉄郎が来たための建築家とする ○'35, 6.10 タウトは吉田紹介の佐々木嘉平を施工に担当する ○'35, 6.18 タウトは吉田鉄郎と平面図の検討を行う ○'35, 8.17 タウトは日本間天井に材材を選択 設計通りの板材が無いので何箇所か模様替え ○'35, 8.31 タウトは床の間に佐々木より助言を受ける ○'35, 9.12 タウトは吉田鉄郎邸「日本の住宅」を参観 ○'35, 11.17 タウトは鈴木道次と現場管理に行く ○'35, 12.8 タウトは吉田鉄郎と現場に行く ○'36, 4.12 上野三郎と現場管理に行く ○'36, 9.20 完成の為、吉田、水原、島田、高村、ブノア夫妻、山野と現場に行く ○'36, 10.15 ブルーノ・タウト離日	
施工	施工者	○'33, 5.3 ブルーノ・タウト来日	○'34-35 清水組 1, 2, 地下1階施	○'35-36佐々木嘉平地下1階改修施工
	施工 関連事項		○'35, 6 佐々木嘉平タウトの仕事を手伝い負う ○'35, 8 佐々木嘉平は改修材料費を日向利兵衛より受け取る ○'35, 8 佐々木嘉平、床の間にタウトに助言	
協力	協力者		○'35, 4.5 柳澤健 タウトを日向利兵衛に紹介 ○'35, 5.1-36, 9.20 吉田鉄郎 地下1階改修を協力 ○'35, 5.8-36, 9.20本間汎 地下1階改修を協力 ○'35 水原徳吉 家具、鏡物担当 ○'35, 11.17 鈴木道次 通訳担当	
	協力 関連事項	●'15-20 柳澤健 通信省勤務 ●'19-21 吉田鉄郎 通信省経理局常務係勤務	○'35, 5.8 吉田鉄郎は5人の建築家をタウトに紹介 ○'35, 6.10 吉田鉄郎は佐々木嘉平紹介する ○'35, 7.13 吉田鉄郎と平面図の検討を行う ○'35, 8.17 吉田鉄郎は日本間の天井について日向利兵衛に相談を受ける ○'34 ブルーノ・タウト「ニッポン」発行	○'36 ブルーノ・タウト「日本文化概観」発行 ○'37 IL「Architecture d'aujourd'hui」発行 ○'39 ブルーノ・タウト「日本美の再発見」発行 ○'39 清水組刊行「住宅建築図集」発行 ○'43 ブルーノ・タウト「タウト全集第三巻 美術と工芸」発行 ○'46 ブルーノ・タウト「建築藝術論」発行 ○'50 ブルーノ・タウト「日本の建築」発行 ○'52 ブルーノ・タウト「建築と芸術」発行 ○'75 ブルーノ・タウト「日本の住宅の日記」発行 ○'83 伊藤ていじ、横山忠「現代和風建築図」発行 ○'95 高橋英夫「ブルーノ・タウト」発行 ○'00 エフスナレッジ刊行「建築のモダニズム」発行 ○'02 鈴木久雄「ブルーノ・タウトへの旅」発行
文獻資料 ※				
備考			○'35, 12 吉田鉄郎「日本の住宅」発行	
	図面	○'34, 6.2 清水組 擁壁構造図 ○'34, 6.13 清水組 建図(縦断面図) ○'34, 6.26訂正・'34, 7.5訂正 清水組 建図(平面、各面所断面) ○'34, 7.4 清水組 地階詳細図 ○'34, 7.10 清水組 ベランダ廻り詳細図 ○'34, 8.14 清水組 構造詳細図その巻 ○'34, 8.14 清水組 構造詳細図その二 ○'34, 8.14 清水組 構造図 ○'35, 7.1 ブルーノ・タウト計画図面	● 法政大学武蔵英二研究室実測図面 ○'04 東京理科大学実測調査図面	

における図面^{註13)}と今回の実測図面を比較すると、現在8畳の和室である部屋において、竣工後の図面では3畳分のみ畳敷きで、残りの5畳分は畳敷きではなかったことがわかった。また、地下室において日付(1935年7月1日)が記載されているタウトのサイン入りの図面^{註14)}を検証すると、開口部、そして和風テラス以外はほぼ現状と一致していることから、1935年7月1日時点で計画案はほぼ固まっていたと考えられ、文献資料においても、その後の図面検討に関するものは『タウトの日記』の1935年7月13日のみの記載となっている^{註15)}。

3-3-3. 施工における関連事項

別邸の竣工は1935年2月^{註16)}であるが、清水組の施工図面^{註17)}のうち、最も古い日付である1934年6月2日の『擁壁構造図』中の「地下1階床梁伏図」をみると、1階部分について「既存部分」と表記されていることから1・2階部分においては1934年6月2日時点で既に竣工していたことが考えられる。

3-3-4. 協力者における関連事項

吉田鉄郎著の『日本の住宅』^{註18)}の出版は、1935年12月であったことから、吉田鉄郎は熱海日向別邸改修工事の協力中に執筆していたことが推測できる。また『日本の住宅』はタウトが『タウトの日記』にて読んだと記載している1935年9月12日以降に出版されていることから、タウトは『日本の住宅』を出版前に入手し読んでいることがわかった。

考察

清水組刊行『住宅建築図集』には、別邸の竣工年は1935年2月となっているが、1・2階部分の竣工は、日向利兵衛が土地を取得した1933年10月25日から1934年6月2日の期間であると考えられ、それ以降の期間は地下工事に費やしたと推測される。

またタウトの地下改修では、吉田鉄郎と関係する人物が多く関わっていること、通信省に關係する人物も多く関わっていることがわかった。吉田鉄郎が別邸に協力した時期は『日本の住宅』を執筆中であり出版前の『日本の住宅』をタウトが読むなどしていることから、タウトは日本の建築について吉田鉄郎に指導を受けながら別邸に関わったことが考えられる

まとめ

今回の研究において、別邸の竣工とされている1935年2月以前に渡辺仁設計の1・2階は竣工していることがわかり、タウトの地下改修では、助言や人物の紹介を含め吉田鉄郎の影響は大きかったことがわかった。また、文献資料調査、実測調査により現状に至るまでの期間に、所有者を含め別邸全体でいくつかの変更がなされていることが確認できた。

謝辞:本研究において実測調査にご協力頂いた日本カーバイド工業株式会社、そして資料を提供して下さいった清水建設株式会社、矢作英雄氏、橋本久道氏に深謝の意を表します。

を証し、註1) 高島日本館の所有者であった山内利雄は、見聞録で活躍した実業家であり、東洋精糖や新火炎などの会社にも経営者として加わっていた。註2) 建築家。昭和時制工務、東京国立博物館などの代表作品を造る。註3) 日本人建築家であり、日本インターナショナル建築館の招存を受けた大井、ダグラスの代表者である。註4) 清水建設株式会社提供の熱海日別別邸施工図、川岸英雄氏の著作「木造日本館」の平面設計図面、実測図面などを、註5) 土崎紀一、良江子著「まじなまの家」065 建築家肖像傑作に収録(図面出版1995年、p. 269, 註) 参考文獻文)。註6) 清水組(旧清水建設)の竣工写真の竣工に設計者を知る数少ない資料である。註7) プルーン・タウト著「ドイツの日記」093、1936年、岩波書店、1975年。註8) 清水組(旧清水建設)の竣工写真に「横山正(現代和風建築家、講談社、1983年、註1) 伊藤いつと、横山正(現代和風建築家、講談社、1983年、p. 178-183 法政大学書志研究家実測図面。註9) 註12) 新建築1976年11月号増刊増刊号「昭和と清水」p. 74-75。註13) 清水組(旧清水建設)の竣工写真に「川岸英雄氏の著作「木造日本館」の平面設計図面。註14) 川岸英雄氏の著作「木造日本館」の平面設計図面。註15) プルーン・タウト著「ドイツの日記」093、1936年、岩波書店、1975年。註16) 清水組(旧清水建設)の竣工写真に「横山正(現代和風建築家、講談社、1983年、p. 178-183 法政大学書志研究家実測図面。註17) 清水建設株式会社提供の熱海日別別邸施工図、註18) 参考文獻文)。註19) ドイツにおいて出版された初版である。参考文獻文)。1) プルーン・タウト「日本 建築」の日記093、1934年、1935年、36年、清水建設株式会社、岩波書店、1975年。2) 吉田鉄郎「日本の住宅」丸井出版、2002年。3) プルーン・タウト「日本の木造建築の再発見」藤田英雄氏、岩波書店、1939年。4) プルーン・タウト「建築と藝術」吉田鉄郎氏、雄松社、1952年。5) 長谷川虎雄「鏡と相模図相模図」1973年。6) プルーン・タウト「日本の建築」藤田英雄氏、春秋社、1940年。